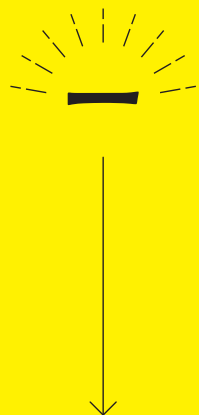


どうする
まちなか
いちのみや



一宮のまちなかでは

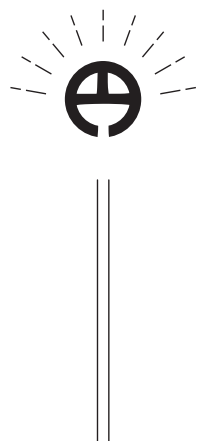
中心市街地に関する会議体の不存在

一宮市では2007年頃に中心市街地活性化協議会が設置され、公共路面でのオープンカフェなど社会実験も実施されましたが、どれも実効性を伴わないまま姿を消しました。

商店街では内部的な関係性で、活性化作業が十分にできないまま時間が経過しました。

その間に何度か散発的な議論はされましたが、そのまますぐに消滅しています。他地域では新たに中心市街地活性化協議会が(再)設定され効果をあげてきましたが、この地域はずっと空隙となったままでした。

話し合いの場が求められて久しいのが、一宮のまちなか・・・中心市街地です。



円卓会議

「円卓会議(えんたくかいぎ)は、参加者間の相互関係や席次の明確化を避けるなどの目的で円卓を用いて行われる会議のこと」とされています(ウイキペディア)。

大阪狭山市や銚子市で、まちづくりのための円卓会議が開催されています。雲南市でも過疎化を起点にまちづくりにまで広がる円卓会議が開催されています。

序列や力関係など、参加者の相互関係を避けることは難しいですが、この円卓会議を開催していく過程で、様々な気づきをし、関係性が再構築されていくことが期待されます。

まちなか円卓会議

中心市街地の内外、地域の内外の様々なセクター、様々な世代で、一宮市のまちづくりに興味を持っている人が増えてきています。そうした人々の「想い」を具体的な「かたち」にすべく、議論の場を設置しています。

立場や役職を離れ、一地域市民、一まちなかファンとして、中心市街地の課題、地域の問題、ビジネスのありよう、連携の方式など、様々な角度からフラットな議論をし、現状の把握や分析を経て、多様なコラボレーションが生まれていくような会議体でありたいと考えております。

この円卓会議は、形は変わっても継続させていきます。



テーマ

今まで

中心市街地の
現状と地域全体に対する
役割や機能の分析と共有

現在

行政・商店街・地域市民等
による活性化作業の
情報共有と課題発見

未来

いつ、誰の、何が
必要か、現実的な
夢の共有と道のり

2020年から、GoTo商店街事業で

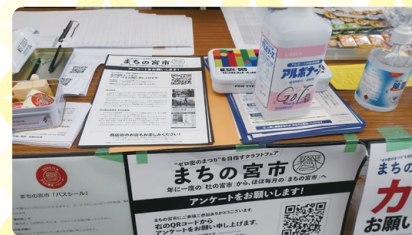
住民連いちのみやでは、経済産業省「GoTo商店街」事業として商店街の課題をテーマとした円卓会議を実施しました。2020年11月21日より2021年2月14日まで、まちの宮市での来街者アンケートや市民交流拠点整備のためのワークショップを含め、2度の円卓会議を開催しました。その中で、商店街にとどまらず中心市街地(まちなか)全般について、市民、行政、企業、団体等によるフラットな議論が、地域全体にとって大切だということが浮き彫りになったと把握しました。

円卓会議とテーマ

参加者間の相互関係や席次の明確化を避けておこなわれる円卓会議。活性化が言われつつ道のりが遠い一宮の中心市街地で、この手法を用いてパワーゲームにならない真摯な議論を未来につなげていければという想いが、「GoTo商店街」事業を経て更に強くなっていきました。

- ✔ まちなかの商業性と居住性は
- ✔ 一宮のまちなかの変遷と未来像は
- ✔ 都市計画と中心市街地は
- ✔ 活性化イベントや、その担い手のありようと今後の展開は

中心市街地を核とする一宮市全体について、地域内外の専門家や関係者、経験者とともに話し合うこと。こうした中心市街地の議論は SDGs 目標11「住み続けられるまちづくりを」の視点からも大切でしょう。



2021年、一宮市市民活動サポート補助金対象事業として

「まちなか円卓会議」事業は、一宮市が全国に誇った「市民が選ぶ市民活動支援制度」(通称1%制度)に代わってスタートした「一宮市市民活動サポート補助金」の対象事業として2021年に始動しました。

- 様々な立場の存在が錯綜する、歴史ある中心市街地で、立場の上下や力関係になるべく左右されずに、未来の地域像を語るができるようになるよう。
- 対話を経て、ある程度の相互理解が多様にはかれるように。
- 全国各地で実績をあげている「中心市街地活性化協議会」の再結成へ向けて、多様な利害関係者の意思疎通と情報共有がはかれるよう。
- 一宮市のウォークアブル構想と連携して、まちなかの再生に官民協働が促進されるように。
- まちなかにカルチャーとアイデンティティが、育かれ続けるよう。

様々な想いをこめて「まちなか円卓会議」はスタートしました。



まちなか円卓会議の様子

まちなか円卓会議 vol.1

2021年8月18日(水) 本町サンプラザ1階にて

まちなかについて議論していくための準備についての話し合いで、商店主、まちづくりNPO代表、コンサルタント、不動産運営、アーティスト、食料品店主、ギャラリーオーナーなど11人が集まりました。



まちなか円卓会議 vol.2

2021年11月8日(月) 本町サンプラザ2階にて

一宮市ウォークアブル事業のエアプラットフォーム検討会議と併せての開催です。志民連いちのみやも共催し、10月22日(金)から24日(日)に開催された「ウォークアブル一宮」の社会実験を受けて、今後の中心市街地のまちづくりの展開についての話し合いでした。まちなか円卓会議として事業の状況と今後の協力要請などをし、話し合いました。商店主、まちづくりNPO代表、コンサルタントなど7人が集いました。



まちなか円卓会議 vol.3・4

vol.3 2022年2月16日(水) com-cafe三八屋とzoomにて
vol.4 2022年2月17日(木) com-cafe三八屋とzoomにて

コロナ禍によりリアルな円卓会議が計画できないまま時間が経過したため、zoomによるリモート開催としました。

第3回は9人(リアル4人、リモート5人)、第4回は4人(リアル3人、リモート1人)、合計13人(リアル5人、リモート6人)が参加しました。

先に実施した「どうする まちなか いちのみや」アンケートの内容を簡単に紹介し、それを受けてコンサルタント、建築士、商店主、不動産経営者、NPO職員などが、議論しました。



●「どうする・まちなか・いちのみや」…アンケート

2022年2月10日から19日(ビバホームの当初の開店予定日)までお尋ねしました。

一宮競輪場跡地へビバホームなどがオープンすることを契機に地域との協力や協働、連携は? 一宮のまちなかは、どうなっていくのか。

継続的に議論していく叩き台として、皆様のご意見を頂戴し、整理して共有しようとしたものです。25人の回答をいただきました。

次ページ以降をご参照ください。

お尋ねしたこと

お名前やニックネーム 組織や団体名

【今までの取り組み】

1つから3つ、個人やグループ、団体や企業などで、まちづくりとりわけ中心市街地について今まで取り組んできたことを、教えてください。

一宮に限りませんが、一宮での取り組みや、一宮の参考になる例をなるべくお書きください。

いつ頃 どこで (誰が) (なぜ・何のため) 何をして どうなったか。

【今、想うこと】

まちづくり、とりわけ中心市街地について、今のお考えや想いを、お聞かせください。

個人のお考えで結構です。

一宮の話に限りませんが、できましたら一宮について、一宮地域に関することもお願いします。

今、想うこと(1)主に「行政」や「団体」について

今、想うこと(2)主に「地域」や「市民」について

今、想うこと(3) VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他何でも

【今からの展開(予定・計画・妄想)】

1つから3つ、個人やグループ、団体や企業などで、まちづくり(とりわけ中心市街地)に関して今後、取り組んでいく予定などを、教えてください。

妄想でも結構です。

一宮の話に限りませんが、できましたら一宮に関係することについてお願いします。

他団体へ期待する事業がある場合は、どんな団体に実施してほしいかもお願いします。

星野 "枚胆屋" 博 NPO法人 志民連いちのみや

今までの代表的な取り組み

- 「どすこいライブ」1998年真清田神社裏の大宮公園で始めた無料野外コンサート。商店街とのコラボ「にぎわい広場」ほか、今に繋がる七夕市民化活動「ラブたな」へ発展。公共地を市民が利用して活性化を図る第一歩だったらしい。構築過程で多くのまちづくりの知恵と関係性をフラットに一宮で蓄積。
- 「三八屋」2001年開業、日替り店主の店・カフェ。2011年拡大し「com-cafe三八屋」へ、「138ブレンドー宮珈琲」開発提供。日本最小クラフトビール工房「一宮ブルワリー」や集会スペースを併設し、文化・交流イベントを継続。2021年本町に多目的交流空地「プリンスアレイ」開設。
- 「杜の宮市」2001年に真清田神社境内で始まったクラフトフェア。手作りのアートクラフトや飲食、音楽などが全国から。商店街と協働で会場拡大、出展4百ブース、来場者3万人規模へ。2020年コロナ禍の中、ゼロ密を目指す仕組みで小型の「まちの宮市」をほぼ毎月開催、2022年5月「杜の宮市」復活へ。

今、想うこと

- 「行政」や「団体」について
行政に余り期待することなく、民間で自律的に活動してきたが、もっと様々な協働に取り組みべきだった。しかしその過程で多くの「行政内市民」「団体内市民」の支援協力を受け、不定形な協働を展開してきた。積極的な活性化を望む行政官や団体関係者も増えてはきたが、昭和を引きずる官吏などもまだ多い。
- 「地域」や「市民」について
行政や団体の姿勢は、地域や市民のありようがそのまま反映。多様な知恵と経験と関係性を基礎に、市民・民間には自由闊達で機動的かつ資源的に自立性ある健全な危機意識と戦略戦術がある。それを行政や団体と共有しながら、実効性ある地域改革・イノベーションが常態化される地域であってほしい。
- VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
VIVAホームは地域に欲しい。出店には、交通アクセス含む分析がアリバイでなく十分に存在したと信じたい。新旧事業者の共存は模索されたと信じたい。駅・駅周辺・商店街・ベッドタウン・自動車・郊外店舗・郊外・公共交通機関のリアリティある未来予想図とそのPDCAが(前からずっと)必要。

今からの展開

- 恒常的賑わいをイベントから形成。まちの宮市だけでなく、毎週毎日、公共地や公共路面を活用して多様な主体による多様な指向の多様な催事が多発する地域を構築。そのためのプラットフォーム(協議体・会議体・連絡網)と、調整実施主体(都市再生推進法人)の地域全体の基盤として形成しながら。
- トリエンナーレをウォーカーブルー一宮の社会実験のテーマに。トリエンナーレの資源でウォーカーブルー一宮に持続性を。「市制101年」から始まる「市民的138年像」を模索したい。
- 交通・安全・地理に恵まれ、ヒトモノカネに危機感が無いこのトカイナカー一宮をサーキュラーなものにしたい。志民・志縁・志事・志金・志設・志源の地域内循環を、豊かで太く、優しくぶれないものとして守りたい。そのためのスキーム、プラットフォームを地域ファンチームで構築したい。

名古屋から人を呼び戻し、このまちで遊び学び繋がり、地域内で多様な循環が強くなることを願って30年活動してきたが、都会ぶった田舎は手強い。我がまちをワガコとして一つでも連結ピンを繋ごうとする小さなアクションが多極化多重化してほしい、それを繋ぐ育むような地域でありたい。

伊藤 葉子 いちのみやハイウェイオアシスプロジェクトチームIHOPT

今までの代表的な取り組み

- 1 富田山公園にいちのみやハイウェイオアシスプロジェクトを立ち上げ、その可能性について有識者を交えたパネルディスカッションを2021.8.1に一般公開でオンライン開催。人口減少社会の次世代のために税金がなくとも維持管理費が賙える都市公園を残したい。2031年オープン目指し審判中。
- 2 NPO法人コミュニেসいちのみや理事として、いちのみやハイウェイオアシスプロジェクトを担当しています。本プロジェクトは、国が進める官民連携まちづくりの活用が前提です。
- 3 チアフル・ママのスタッフ、NPO法人ORR社会貢献センター理事として、オレンジリボン活動や女性支援・子育て支援活動に参加しています。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
国を挙げて新たなまちづくりを推進していますが、自治体の意識が希薄だと、いつまでも方針転換できず、手遅れになることも考えられます。自治体経営という観点が重要だと認識してほしいです。また、本町商店街ではBID(Business Improvement District)を活用したエリアマネジメントが有効だと思います。
- 2 「地域」や「市民」について
新たなまちづくりという仕組みを使いこなす、自分たちで考え、つくることができると気づけば、自分たちのまちに誇りや責任を感じることができると思います。特に本町商店街は、BIDなどの仕組みをしっかりと活用して魅力的になってほしいです。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
公共空間の有効活用を行うのに欠かせないのは、広域、中広域、時間軸などを視野に入れてヒト・モノ・カネを循環させるという視点です。その場で完結してしまう大型商業施設は、周辺への影響が限定されますので郊外が適しています。全国、世界の成功事例を見て市民が関心を持つことも必要です。

今からの展開

- 1 IHOPTでは、税金がなくとも維持管理できる持続可能な都市公園を目指し、収益を想定するとともに、環境やバリアフリーに配慮した未来型の施設とは何かを、様々な方々のご意見をお伺いしながら、一宮市の政策となるよう諸課題をクリアして2031年のオープンを目指します。
- 2 (本町商店街の個人的な妄想) BID関連の法律が成立した(地域再生法改正2018.6)ので、対象エリア内の総受益者(事業者)数の3分の2以上の同意等で、ある一定の合意形成ができれば、反対者の分も含め、「市」が費用を徴収できます。そして、一宮市でホンマチ版BID条例を作ってもらおう。
- 3 (本町商店街の個人的な妄想のつづき) BID条例のもと、市が徴収する財源をもとに、本町商店街の事業者で、Wi-Fiを含めた一連の計画を練って、市に負担金を徴収してもらい、計画的にハードとソフトで、街を再生する。

子育てに住み良い街として中核市一宮のブランディングを明確にし、市中心部に見える形とする計画、まちづくりが必要だと思います。有松、大須、円頓寺などと仕事をし、観光戦略的なものと一緒に作ったので、その経験が一宮でも活かされれば。子どものころは、毎週末ホンマチで歩いてました。ものすごい人でごった返して…懐かしいです。母の実家が花岡町の中の駄菓子屋でした。

sugi

今までの代表的な取り組み

- 1 市街地で自営業の店舗を構えているので、周辺の活性化に頑張っている人たちがイベントを応援して、店のお客様やSNSでの告知で広報しています。自分でできる範囲内でのボランティア参加も。
- 2 一宮を拠点としている硬式女子野球チームを応援すると同時に、チームの人や女子野球ファンの人にも一宮の楽しいスポットを積極的に紹介して足を運んでもらっています。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
中核市となって、市民レベルで感じられる違いや思慮って…?希望としては尾張にも免許センターがあれば助かる人も多いと思います。それが市街地にあれば平日の人の流れも恒常的に生まれて活性化に繋がっていくと思います。
- 2 「地域」や「市民」について
一宮は目玉の観光施設とかはないかもしれないけど、多くの市民は自分の住んでいる街を便利だと感じているし、地元のお店や文化、スポッを楽しんでいます。それをそのまま皆が発信していけば、「一宮は楽しそう♪」というイメージに繋がると思います。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
関係性…。あまり考えなくてもと思います。車で訪れる場所とそうでない場所の違いがありますし。あえていえば、それぞれにない魅力を打ち出していければと思います。

今からの展開

- 1 「まちの宮市」「ウォークブル」等は参加した周りの人たちにも好評ですし、こういうストリートイベントはショッピングモールにはない雰囲気もあり歓迎されています。本町商店街や銀座通りでの週末イベントが恒例になるといいと思います。
- 2 現在まちの宮市は3か8がつく日曜としていますが、そのこだわりも大切にしたいけど、一般の人はいつ開催されているのかわからない人が多いです。例えば第0日曜とか固定した方が定着しやすいのでは…。あるいは3と8にやっぱりこだわるのであれば、それを強力にアピールしていくことが必要かと
- 3 本町商店街が独自でイベントを企画開催していくのは難しいと思いますが、「アーケードをいろんなイベントに活用してください」と積極的に呼びかけて(使用料もいくらかもらって)いくのはアリだと思います。そういう方向性の商店街でもいいのでは。

アーケード街や銀座通りで市街地活性化イベントを企画したい方たちはきっともっとうるさくなると思う。商店街の人たちにも柔軟に受け入れてもらって、ガイドラインづくりには行政も協力してもらって、「いろいろ楽しいことをやってる街、できる街!」という認識が定着すればと思う。今は各団体がバラバラに動いていると思うけど、「年間通して市街地ではこんなことやってますよ!」という流れが作られると、市内外からの訪問者も増えるのでは。

匿名

今までの代表的な取り組み

- 1 今までの取り組みではありませんが、近隣市町には多くのまちづくり活動があり、一宮市は取り残された感否めません。その中でも唯一とっていい市民連の活動は一宮市の中心市街地における一線的光であり続けてきたと思います。感謝の意しありません。
- 2 近隣でいえば、かがみがはらのくらし委員会のような若手が集まるような取組が良い。
- 3 北九州市黒崎のような商店街に若者が住むシェアハウス、シェアオフィス、ゲストハウスような仕掛けがほしい。商店街の店舗の壁さえもぶち破り、シェアできるような思い切った空間づくり。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
行政は議員や有力者のためではなく、本来やらなければならない市民目線に戻ること。行政、市民、団体の境界・背景をなくし、人を中心としたフラットな関係性へ。場合によっては全体最適ではなく部分最適を求める覚悟も必要。
- 2 「地域」や「市民」について
中心市街地にかかわる人が、外部からの多様な風を取り込みつづけることが必要。また、それを受け入れる包摂性を持ち合えたパブリックマインドを持った体制が一層の風を呼び込むのではない。まずは市内でまちなか外の風を受け入れることから始めたらどうか。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
駅から微妙に歩けない場所である半まちなかのVIVAホーム。商店街からは約15分と歩ける位置。ある意味無料駐車場としてとらえてしまい、利用してしまうことも。同じ土俵で考えるべきではない。

今からの展開

- 1 10年以上前に逸したまちづくりの好機は、中心市街地にかかわる多くの人達に負のレガシーとして心に刻まれた。それを払拭することではなく、その想いもしっかりと受け止めた上で新たなフェーズ移行することが必要。
- 2 規模の大小ではなく、まずは機動的に動く。そして、それを目の当たりにすることで内部や外部からの刺激と変化を常に促す。
- 3 一宮市のアイデンティティや文化をしっかりと認識している若手団体に期待。ウォーカーブル社会実験のような多様の・斬新なプレイヤーが伸びるような支援や取り組みを仕掛けるべき。

西村 飛俊 りぶらぼ 一宮市の図書館イベントボランティア

今までの代表的な取り組み

- 1 138 ARTBOOK PROJECT(一宮市市民チャレンジ事業採択) 一宮市のこれからを考えるためのアートブックを作成。そのためのワークショップにおいて子どものための哲学対話を一宮市で初めて開催しました
- 2 絵本の本棚「木のおうち」 どこでも本を読んでいい、読書をするきっかけをたくさん作ろうという思いから、まちなかに読書推進のシンボルとしての絵本の本棚「木のおうち」を制作。たくさんの子どもたちに遊んでもらい「たまには本を読んでもいいな」と思ってもらうきっかけづくりをしてきました
- 3 一宮市立図書館子ども司書講座講師 一宮市立図書館認定の子ども司書の認定をめざす子どもたちに「図書館とはなにか」をテーマにした講義を行いました。また、講座全体を通して担当者と連携し、子どもたちの図書館への関心を高める取り組みも行いました。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
一宮市はほかの自治体に比べて、行政と市民の乖離が激しいと思っています。その間を橋渡しできるような人材が求められているように思います。
- 2 「地域」や「市民」について
市民という以前に、個人として生きること、会社を離れた時の自分はどのような存在なのか、ということを考える機会がないのかなと思います。まずは個人を自覚すると、市民としてなにをやるべきかに気づき、そこからようやく地域が見えてくるのではないかと思います。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
個人的にあそこはぜひ図書館を建ててほしかったです。しかし、周辺のホームセンターの位置を考えると、ちょうどいいかも……とも思ったりします。

今からの展開

- 1 いちのみやブックスワップ 本の交換会。本を通したコミュニティができ、そのコミュニティからまちづくりの活動がまた始まっていくようなしかけをつくりたい。
- 2 本町商店街に「まちライブラリー」 市民でつくる私設図書館を本町に作りたい。ふらっと立ち寄って、気軽に遊びにこれる、しかもゆるいコミュニティに所属していると思える場づくりをめざしたいです。

匿名

今までの代表的な取り組み

- 1 10年ほど前に本町商店街のおかみさんの会に所属していました。中心市街地の活性化のために、節分の日には甘酒を振る舞い地元のイベントにはニットカフェといったワークショップを開催しお手伝いをしていました。
- 2 所属していた会より、街中かわら版のようなもので「ほのぼの」といったPR紙を製作しました。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
本町商店街や駅周辺には自転車の利用者が多く近頃は警察官からの自転車走者に対するお声かけがありますが若干厳しいのではないかと感じることがあります。嫌な気分になる方もいて足が遠のいてしまうかも、と気になります。
- 2 「地域」や「市民」について
やはり私も含めてですが商売をすることで地域に根を下ろしているのなら「やる気」が一番大切かと思う。やる気が削がれてしまってもうどうにもならない店主がいれば助けてあげたいし、声かけをして助け合うまちづくりが底力になると思う。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
VIVAホームセンターができることに大手のチェーン店はきっと対応を強いられると思うけど本町の中にいる者にとっては悲しいかな今、本町が気になる商業施設ではない。50年前だったか一宮にユニーがオープンした頃を思い出します。

今からの展開

- 1 個々の店舗の改装、事業見直しによる魅力ある店舗作り。
- 2 商いをすることに関してはプロでも新しく発信方法や今、何が必要とされているのか世間の動向の見方など話し合える取り組みが必要だと一歩前に進むと思う。
- 3 商店主同士の助け合い、話し合い、異業種との新しい取り組みなどの将来を見据えた話し合える場所作り。

かなり個人的な意見を入力しましたがこのようなアンケートに答えることで小さな一歩になることを願います。

藤森 幹人 NPOまちの縁側育くみ隊、ノコ屋根ベースi、(株)対話計画

今までの代表的な取り組み

- 1 「まちなかウォークアプル社会実験～ストリートチャレンジ2021～」2021年10/22～11/12。銀座通や本町通や市役所前広場など一宮駅周辺のまちなかを多用に活用するため展示・体験・物販・飲食などを行った社会実験。
- 2 「ノコギリ・スケルトン・トライアル」一宮の特徴的な街並みの木造ノコギリ屋根の建物を、街に開いた空間に改修して、アート展示やワークショップ、ライブなどに活用し、その空間の魅力を広く伝えた。
- 3 社の宮市、まちの宮市に協力して、中心市街地の魅力を次世代につないでいきたい。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
郊外にどんなに便利なショッピングセンターができて、歴史や地域文化を育んできた中心市街地に代わることはできず、新しい歴史を積み重ねながら将来に受け継いでいく必要な場所だと思います。まちなかに新しい魅力と歴史を創造し、将来を担う若い世代がチャレンジできる中心市街地にしたい。
- 2 「地域」や「市民」について
名古屋をはじめ岡崎や豊橋、岐阜など、周辺都市の街なかでは若い世代が様々なチャレンジを始めています。そのためには行政や地域団体や市民が本気で取り組む協力体制が足りないと思います。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
VIVAホームができるからという短期的視点よりも、100年先の未来にどんな中心市街地を残すかという長期的視点で取り組んでいきたい。今はある面で危機かもしれないが、市政100周年や芸術祭などチャンスを活かす視点も大切に思います。

今からの展開

- 1 ストリートチャレンジは、行政と地域と市民が協力する体制をつくる社会実験として引き続き協力していきたい。
- 2 一宮100年の街並みであるノコギリ屋根の建物の魅力を体験できる空間を一つずつ増やしていきたい。
- 3 今後も協力し支えていきます。

福岡 ますみ 138ART BOOK PROJECT

今までの代表的な取り組み

- 2021年一宮市内各所(エコ建築考房、三八屋、新見本工場、中央図書館)で市制100周年の以前とこれらを考えるWSを各世代と行い、本を作った。
- com-cafe38yaにおいて2019年より哲学カフェをphilosophy愛知と開催。考える事や人と対話し白黒付けない事などあまり一宮で行われて来なかった事を積み重ねてきた。ちょっと会は定着してきたように思う。

今、想うこと

- 「行政」や「団体」について**
100周年やウォークブルをみていて、個人や行政としての失点を恐れて動きが悪い面があるけど仕方ない面もあると感じた。
- 「地域」や「市民」について**
WSなど働きかけ、参加してもらう事、その後のフォロー手応え全であるような言いよう。難しいと感じています。
- VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他**
黒田にキリオが来て地域がどう変化したかそれ以前から居ないのでよく分からないが、まちなかにピバホームができて人の流れは変わると思うがどのように意識がかわるかは興味がある。

今からの展開

- 138ABPでは、子供たちと対話と体験がセットのWSを続けたい。
- com-cafe38yaでは小さな対話を積み重ねて、withコロナで生活スタイルや考え方が流動的になるこれからを人がどう捉えて行くかを注意深くみていきたい。
- その他団体では、withコロナで取り残されがちな子育て世代を丁寧にフォローするおさんぼやさんの動きに期待しています。後は本(物語)とコミュニティを繋げるいばらばに期待。

矢崎 達也 ハウスカ バイッカ

今までの代表的な取り組み

- 2021年10月にまちなかウォークブルに参加、ひつじが日常になればとの想いで銀座通り、本町商店街で「ひつじとのふれあい」を実施。
- 2020年7月に築60年の空き家をシェアスペースとしてオープン、空き家活用の一つとして実績を残せた。
- 毎月、メンバーを中心に月一懇親会を実施、コロナ禍でも安全安心に交流できることを実践中。

今、想うこと

- 「行政」や「団体」について**
色々な素敵な団体があるので、力一つにまとめて動けると良い。
- 「地域」や「市民」について**
面白いことをやれば必ず立ち上がってくれる人が出てくると思う。
- VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他**
集客がある商業施設が来ることは一宮全体としては良いことだと思う。あとは地域と連携できるような仕組みを作っていきたい。

今からの展開

- ゲストハウスを作り他地域からも面白い人が来てくれるようにしたい。
- 活動を継続できるように資金を集めたい。(キッチンカーを導入したり、飲食スペースを作る。)
- 中心市街地の空き家を買ってしげみなく活動したい。

早く成功事例を作って腰の重い人達に少しでも興味をもってもらいたいですね!!

上條 soto casa

今までの代表的な取り組み

- コロナ禍になるまでは、子ども～大人までを対象としたデイキャンプのような野外活動を月一ですずめのお宿で開催。
- 自然体験、野外活動をしたことのない親子や、心に荷物を抱えた人、コミュニケーションを苦手とする人たちが心落ち着かせられる場所づくりとして開催してありました。
- 参加者の感想として、親子関係、夫婦関係が良くなった、生きづらさが和らいだという意見も頂きました。

今、想うこと

- 「行政」や「団体」について**
主体性をもって街に関心をもってくれる行政職員が増えるといいなと個人的に思います。各団体同士が広く横のつながりを持てると良いと思います。
- 「地域」や「市民」について**
よりよい街を目指すためには、開かれた地域、市民の寛容性について、行政、各団体との間での交流を深めながら関心を高めていく必要があると思います。
- VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他**
VIVAができることで、街にどんなインパクトを与えるのかが分かりません。一宮の税収が増えるならそこも含めて話し合いが必要なのかも。

今からの展開

- 中心市街地において特に構想や取り組みは予定しておりません。
- 街の中心が森になったら嬉しいです。緑を多く感じられる公園など。
- 団体が市街地で活動するためには、拠点を構えられることが優先順位として考えられます。活動しやすい条件、助成があると活動もしやすいのでは。

谷口 庄一 星城大学 経営学部 准教授

今までの代表的な取り組み

- 1 「東海市地域大円卓会議」毎年ゼミ所属の学生を推薦し、東海市中心部(太田川駅周辺)の賑わいづくりの提案をプレゼンテーションさせています。
- 2 2009年より「アースデイ尾張木曾川」を毎年開催。2013年にi-ビル シビックテラスにて開催しました。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
一宮市市政100年を迎えて、これからの100年を見据えた一宮について考えるべきだった。
- 2 「地域」や「市民」について
人口40万人近い都市なのに、まちづくりに関するプレイヤーが少ない。また育っていない。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
一宮駅前の再開発と一緒に進むべきでした。一宮市は大きなチャンスを逃がしました。

今からの展開

- 1 セミの学生と共に、一宮市の新しい魅力と可能性について研究を進める。
- 2 平島公園野球場(一宮市営球場)を移転し、競輪場跡地でできなかった一宮新都心の開発構想をつくる。

100年をしっかりと振り返って、これからの100年を見通すべきだったと思います。

喜多 茂樹 株式会社エコ建築考房

今までの代表的な取り組み

- 1 まちなかウォークアブル社会実験 ストリートチャレンジ2021。
- 2 「木暮らし市場」の共催。2015年～毎月第3木曜日に本社敷地内で地元を中心とする移動販売車、作家さんが出店するマルシェ。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
日本の99.7%は中小零細企業。一宮においてもその中小零細企業が元気になれば自然と市の経済も活性化すると思います。財政、雇用、経済など多方面へ波及効果があると思います。
- 2 「地域」や「市民」について
過去の詳細はわかりませんが、官から民間主導に少しずつ動いていると聞きます。また、それを歓迎する民間の声も聞きますので、その流れを推進されていくことがいいと思います。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
基本的にはVIVAさんができたことで同業種小規模商店の経営支援をどう考えるか?

今からの展開

- 1 公園を活用した緑地の活用。民間委託によるマルシェetc催しによる賑わい。
- 2 駅前を公園にして民間が管理する。日常市民が集う場所に変える。

水谷 岳史 株式会社On-Co

今までの代表的な取り組み

- 1 2019年より、弊社がさかさま不動産という「人と空き家のマッチング」を始めました。空き家ではなく「借りたい人」の情報を公開することで、まち側が借りたい人を選ぶことができるようになりました。現在11件のマッチングが成立しています。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
一宮のことを考えれば考えるほど、他の市町村の事例や先進的な取り組みを学ぶ必要があると思います。(一宮市以外も)民間事業者として、そういった意見交換の場の創出をこれからも行っていきたいと思います。
- 2 「地域」や「市民」について
まちづくりに主体的に関わる人を増やすことが課題だと思います。行政や団体に任せられるのではなく、一人一人が未来の地域について考えなければいけない段階になっていると思います。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
企業側はESG経営を念頭に置き、市場ではなく地域に認められることによる持続可能性を目指すべきだと思います。意見交換の場を企業側が作り、まち側はそういった場に積極的に関わることで共創関係を作り上げ、新しいモデルを作っていくべきです。

今からの展開

- 1 さかさま不動産の拠点を全国に作る構想があります。地域でプレイヤーと空き家をマッチングする仕組みを一宮に作る流れが求められるのであれば、是非協力させていただきます。

若尾 直哉 boccheno

今までの代表的な取り組み

- 1 駅前銀座通りで2013年から毎月ビザ移動販売車を出店、駅前の屋台文化を取り戻すため。
- 2 2015年からエコ建築で木暮らし市場主催、一宮に日常的なマルシェ文化を根付かせるため。
- 3 2012年から年一回粉祭、2020年から毎週渋ビル百貨店を主催、せいの団地の賑わいと洒落な街並みの宣伝のため。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
個人レベルの活動にも行政は支援・応援してほしい。
- 2 「地域」や「市民」について
一宮の活性化とはどんな姿なのか、具体的なイメージが見えてない。生活するだけの街、楽しむのは名古屋とか岐阜へという街になっている。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
選択肢が広がるのは良い。まちなかの創意工夫で対等になってほしい。

今からの展開

- 1 これまでの活動を継続していく。
- 2 エコ建築で開催の木暮らし市場を駅前で開催したい。

CoCo亭本社を巻き込んで、カレーの街一宮というブランドを作りたい。まちなかにカレー屋を誘致する。

匿名

今までの代表的な取り組み

- 1 中心市街地にて市民や通行する人に対してイルミネーションを設置して活性化を行っています。冬の風物詩として定着したイベントになっています。
- 2 秋のイベントを一堂に介して広報を行うだいいフェスタを開催しています。ハロウィンに合わせて未就学児にお菓子を配り、盛り上げています。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
我々の団体をもっと柔軟に対応するべきであると自己反省しています。色々な方の思いを汲み取り、実施するイベント等に組み入れて行くべきだと思います。
- 2 「地域」や「市民」について
様々な方にこの活動を知ってもらい、インクルーシブを意識して多くの方に参加してもらって欲しいです。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
VIVAホームの営業は決して否定は致しませんが、中心市街地で事業を行う皆様と連携をとってもらう事を希望します。

今からの展開

- 1 ウォークابل事業をさらに進めて欲しいです。是非もっと我々の団体やNPO法人を巻き込めるように連携したいです。

Facebookからきました。遅参したこと、大変申し訳ありません。こうした活動、とても応援します!勇気になります。頑張ってください。

岩田 勝弘 名古屋ステーション開発株式会社

今までの代表的な取り組み

- 1 2003年～2012年、JR東海事業推進本部担当課長として、一宮市と協議・調整。
- 2 2010年頃、JR東海事業推進本部担当部長として、岐阜県、岐阜市等と一緒に岐阜駅周辺活性化協議会を立上げ。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
当時、一宮市として商業集積駅ビルを望んでいたが、図書館等公共施設建設を当方から提案。結果としてよかったと判断している。
- 2 「地域」や「市民」について
岐阜県知事の強い要望もあり協議会を設立。駅前広場の使用制限緩和やイベントの定例開催など基盤ができて良かった。

今からの展開

- 1 2022年、一宮駅前駐車場用地の一部に地元をキーワードとしたミニ店舗及び憩いの場を設置。ウォークابل空間を創出。
- 2 地域が一体となることができる定例イベントの開催①駅前マルシェ、②七夕装飾のエリア拡大、YOSAKOIやコスプレ大会等。

40もんちっち エコ建築考房

今までの代表的な取り組み

- 1 4年前から全国対象ですが一宮の空き巣をなくすために家を守ろう川柳をやってきて4回が終了しました。コロナもありますが応募数も増えていることから一宮の安全に少しは貢献しているかと思っています。
- 2 7年前からエコ建築考房で地域の人気店を集め地域とのつながりを持つために「チルチンびとマーケット、木暮らし市場」といったマルシェを開催するようになりました。やっと地域の人からも知っていると言っていたできるようになりました。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
最近では町が住みやすくなると思うようになりました。それには行政と足並みそろえないといけないことも感じました。長い間続けてきたことを変えることは非常に労力要りますがそれでもやらないといけない気がしています。
- 2 「地域」や「市民」について
一宮の人は問題点はよく言いますが改善はしない人が多く感じます。ですが誰かがやればやってもいいよという人も多く思います。協力してくれやすい地域性と感じます。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
VIVAホームは便利な場所になると思います。たくさん税金いただいて駅前の開拓など循環ができればいいと思います。

今からの展開

- 1 駅前公園計画!駅前におっきい公園を作り商店街と真清田神社につなげる。その周りに住宅と店舗をちりばめる!そんな駅前がいいと感じています。

日野 絹枝 いちのみや大学

今までの代表的な取り組み

- 1 一宮をキーワードに市民講座を月1回ぐらいのペースで開催

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
何かを街なかやろうと思うと、いろいろと制約が多ような気がします。
- 2 「地域」や「市民」について
一宮は年配の男性がメインでいろいろとボランティア活動に参加している気がします。もっと若い世代も参加しやすい場があるといいかも。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
今イオンモール木曾川の中で、国際交流協会のフェスタを開催しているが、そういう市民のイベントを手軽に、VIVAホームの中でやれるといいと思います。

今からの展開

- 1 街なかでいろいろなイベントがあっても、意外と伝わって来ず、どんな人がどんなイベントを、いつどこでやるか、一本化してFBやインスタなどSNSでわかるといいなあと思います。ホームページは定期的に見に行かないとわからないし、一宮市観光協会のnaviあたりでSNSを活発に発信して欲しいです。

安藤 元二 一宮市本町通三丁目商店街振興組合

今までの代表的な取り組み

- 1 商店街活動20年、本町商店街のアーケード建設に従事した。
- 2 一宮七夕まつりへの参加。
- 3 社の宮市・まちの宮市を共催、支援。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
行政は中心市街地の活性化にやさしさを投げてください。
- 2 「地域」や「市民」について
商店街の人々よ、怒れ!
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
駅ビルの中は残るが、中心市街地はさびれる!

今からの展開

- 1 商店街や個店だけではどうしようもない!市民の力を!市民団体との連携を。
- 2 中心市街地の空き店舗対策。
- 3 市営駐車場、一宮市役所本庁の立体駐車場の土日無料開放、それによって人々の流れが変わる。流れが変わればにぎわいが戻る。

他の市町から来たくなるまちづくりを!それを実現するための組織づくりを!

彦坂 雄大 尾州のカレント

今までの代表的な取り組み

- 1 ストリートジョンヘル 一宮駅構内や銀座通り、本町商店街に尾州の伝統織機「ジョンヘル」を設置して稼働し、職人が実際に生地を織る事で地場産業を多くの人に知って貰いました。
- 2 びしゅう産地の文化祭 創業125年の老舗機屋である木玉毛織の工場を会場に「工場見学ができるマーケットイベント」を開催し、推定2500人の方にお越しいただき繊維の物作りを実際に見てもらいました。
- 3 びしゅうの放送室 FMいちのみやさんと月2回を行っているレギュラー番組です。先週の放送で30回目となりました。尾州にゆかりのある方を毎回ゲストにお呼びし、尾州やそれにまつわる文化の魅力を発信しています。

今からの展開

- 1 まちづくりに関しての活動をするつもりはありませんが、尾州産地を知ってもらうためにもウォーカーブル事業には引き続き協力していこうと考えています。

富田 隆裕 一宮市銀座通商店街振興組合

今までの代表的な取り組み

- 1 2021年11月 いす・1GP愛知一宮大会。
- 2 毎年7月 一宮七夕まつり笹飾り付け。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
最近「ウォーカーブルシティ構想」を取り入れ、積極的に社会実験を行っていたい。
- 2 「地域」や「市民」について
お祭りやイベントが好きな人はいるが、自分たちの街のものと感じて行動する人は他地域と比べてまだまだ少ないと思う。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
VIVAホーム他、大規模商業施設は競合として考えるのではなく、その存在を認めた上で、「まちなか」としての独自の魅力を作っていくことが大事だと思います。

今からの展開

- 1 定期的に商店街でもイベントを打ってきたい。

一宮はその名の通り、真清田神社の門前町から発展しました。この原点に立ち返り、この地は「真清田神社の参道」であるという潜在意識を持って「まちなか」を考えてほしいと思います。

野村 晃充 株式会社のいり 代表取締役

今までの代表的な取り組み

- 1 2008年から2017年にかけて、一宮青年会議所メンバーとして、一宮のまちづくり活動に従事しました。中心市街地の活性化については、何度かフォーラムやイベントを開催しましたが、残念ながら大きな変革は実現できませんでした。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
行政は優秀な人も多いし、頑張っていると思います。社会実験もチャレンジングで面白い。ただ、行政が関与できるのは規制緩和とルール作りがメインであり、真のまちづくりのためには、もっと民間が頑張らないといけない。
- 2 「地域」や「市民」について
一番足りないのは企業努力。社会課題はビジネスを通して解決するというのが私の理想なので、もっと民間企業がまちづくりに関与するべきと考えます。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
地域の活性化という目的は共通。中心市街地ならではの、個性を創り出すのが大切では。

今からの展開

- 1 民間企業（不動産会社）として、中心市街地の活性化に貢献できたらと考えております。

藤田 恭兵

今までの代表的な取り組み

- 1 街の動画を取る活動、一宮のおもしろい人の活動が外に伝わるように
- 2 さかさま不動産、借りたいプレイヤーを可視化して空き家を活用を促す

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
若者の活気が出てきて面白い街だと思ってます！
- 2 「地域」や「市民」について
主体性もあって面白い街ではないでしょうか？ただそれだけではダメだとも思ってます。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
リアリティがなくあんまりよくわかりません。

今からの展開

- 1 さかさま不動産にて空き家の活用を促すことができたらと思います。

安藤 晴美 NPO法人おさんぼや

今までの代表的な取り組み

- 1 2016年～大野極楽寺公園などの自然や地域の中で、子育て世帯のためにおさんぼ会や防災講座を行い、安心安全な場作りをしています。
- 2 古民家にて、親子食堂を開催し、食育を通して安心安全な場作りをしました。
- 3 令和2年度～オンライン講座（クッキング講座・子育て講座・防災講座・緑を育てる講座）を行い、延べ500世帯が参加しました。

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
子育てしやすい環境を創りたいと願う親の関心は高いように感じます。協働するには、意識のすり合わせや目指すものを共有することが必要で、一部の意見ではなく、色々な方の意見が尊重される意識としくみがあるといいなと感じます。
- 2 「地域」や「市民」について
自分たちの意見のフィードバックがあるのか・・・地域を知らないこともあり、その実感が薄く、地域への関心が薄い部分もある気がします。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
行政とまちなかの連携はもちろん、相互作用で良い方向へ向かうような連携がじわじわと育っていくといいなと思います。

今からの展開

- 1 一宮市内の連区に1つ！子育て家庭と地域の安心安全な「第三の居場所」づくり。

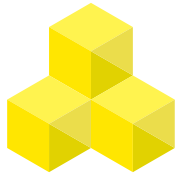
市民C

今、想うこと

- 1 「行政」や「団体」について
行政しかできない事と団体（民間）ならできる事をミックスすればなんでもできる気がします。
- 2 「地域」や「市民」について
本町アーケードの皆さんは、何かして欲しいじゃなくて、何をしていくつもりか教えて欲しい。
- 3 VIVAホームとまちなかの今後の関係性、その他
共存共栄。

今からの展開

- 1 七夕開催時に、露店商ではなく、一宮市内のお店が出展できるといいな。



㊦ まちなか円卓会議 関連事業

交流

intermingling

多目的交流拠点「プリンスアレイ」

一宮の中心商店街のほぼ中央にあるこの空地には、かつて老舗店舗の高間帽子店がありました。またプリンス食堂の土地でもあります。

プリンス食堂は、地域の味噌カツ元祖で結婚式場もあった一宮の代表的なスポットでした。

プリンス食堂に敬意を表し、その路地として「プリンスアレイ」と呼んでいます。

新しいキッチンカーのテスト、料理の試食会、ワインの試飲会、物販やサービスなどのテスト出店、屋外美術展示・・・

間口4mほど、奥行17mほどで砂利敷きの「プリンスアレイ」は、自由なデザインで自由な出店・出展が可能です。



<https://www.shimin.org/princealley/>



志民連いちのみやの主な活動

*は現在継続中の事業

1996年 12月	ニフティサーブ「プレティンいちのみや」開設	2010年 8月	コミュニティカフェ「com-cafe三八屋」開業*
1998年 7月	大宮公園土俵で「どすこいライブ」開催	2011年 4月	東日本被災支援と地域防災「ずっと…」企画運営*
1999年 7月	一宮七夕まつり「にぎわい広場」開催、企画参加	2011年 5月	クラフトビール工房「一宮ブルワリー」開業*
2000年 12月	見学会「見上げてごらん、のこぎり屋根を」開催	2012年 11月	尾張一宮駅前ビル「一宮市市民活動支援センター」受託運営*
2001年 3月	4坪のカフェ&日替わり店主の店「三八屋」開始	2012年 12月	「138ひつじプロジェクト」企画*
2001年 6月	クラフトフェア「杜の宮市」を企画運営*	2014年 10月	「クラフトビアパーティ」in尾張一宮駅前ビル企画運営*
2001年 7月	一宮七夕まつり「にぎわい広場」市民自主運営へ*	2015年 10月	「138ひつじフェスタ」尾張一宮駅前ビルで企画運営*
2002年 1月	「まちなか・よおしたい・どおしたい」開催	2016年 7月	七夕まつり「葵にぎわい広場」としてにぎわい広場復活*
2004年 4月	「ラブたな～七夕まつりを愛する志民の会」設立*	2020年 5月	杜の宮市「アマビエフラッグ」銀座通に120枚設置
2004年 5月	「市民活動大集合!」(現ヒロガルソーシャル)企画*	2020年 11月	ウイズコロナ版クラフトフェア「まちなか宮市」企画運営*
2005年 2月	「特定非営利活動法人志民連いちのみや」設立*	2020年 11月	GoTo商店街「商店街円卓会議」企画運営
2005年 4月	「138ブレンドいちのみや珈琲」発売*	2020年 11月	「プリンスアレイ」検討開始*
2007年 8月	「志民学校いちのみや」企画運営	2021年 7月	ウイズコロナの七夕まつり(マンス)無料休憩所運営
2007年 10月	「ラウンドアバウトドッグ～アートドッグズ138」企画*	2021年 8月	「まちなか円卓会議」企画運営*
2008年 7月	一宮七夕まつり「結びの宮市」企画運営	2021年 9月	「100年カフェinプリンスアレイ」開催
2008年 9月	市民活動団体連携網「138NPO」設立*	2021年 10月	一宮市「まちなかウォークアブル社会実験」共催*
2010年 7月	市制100周年を考える「プロジェクト2021」開始		



特定非営利活動法人志民連いちのみや

いつまでも知らんぷりを続ける「死民」でなく
文句ばかりを言うが何も動かない「私民」でなく
地域へ自己責任で能動的に働きかけていく「志民」へ

志民連いちのみやは、愛知県一宮市に軸足を置き、まちづくり活動を行い、団体等を支援し
市民・行政・企業・諸団体が協働する地域づくり環境の醸成と自主的の市民性の育成を図る活動をしています。

どうする・まちなか・いちのみや

2021.一宮市市民活動サポート補助金対象事業

〒491-0859 愛知県一宮市本町4-12-7 特定非営利活動事業 志民連いちのみや <https://shimin.org> info@shimin.org

[協力]一宮市本町商店街・一宮市銀座通商店街